opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 28

1936年10月1日、オプス・ディ創立記念日前日、迫害の最中、ホセマリア・エスクリバーは自身の強さや勇気は全て神からの借り物であることを悟ります。

2023/11/11

過去の記事はこちらから

8月上旬に母の家を脱出してから放 浪を続けていた聖ホセマリアは、9 月上旬アルバロが一人の兄弟と一緒

に避難していた家に入りました。10 月1日となった。翌日はオプス・デ イ創立記念です。神父は大きな祝日 に神から少し特別の恵みを受けるこ とがよくあったので、明日何がもら えるだろうかと考えていました。す るとアルバロの別の兄弟が血相を変 えて現れました。この家の主人の家 族も捕まり6人が殺された。一人は 司祭だった。捜索が近づいている。 すぐに逃げるように、と。聖ホセマ リアが家を出ようとすると、急に強 い恐怖にとらわれ膝ががくがくと震 えました。このとき神父は気がつい たのです。一日早いが、これが神様 の特別の恵みだ。自分の強さや勇気 はすべて借り物であることをはっき り教えて下さったのだ、と。

内戦の始まるかなり以前から、スペインの大都市には聖職者に対する憎しみが広がっていました。そんな町を司祭服で歩き回ることは危険でした。聖ホセマリアも何度も侮辱的な

言葉や石やボールを投げつけられた ことがありました。しかし、彼は平 気でその中をくぐり抜けては病院を 訪問し幅広い司牧活動を行いまし た。また内戦が始まり死の危険が身 近に迫ったときも、殉教することに 喜びを感じていました。しかし、そ れらの勇気は自分に備わった資質で はなく、なによりも神からの賜だっ たのだ、神が助けて下さらなければ 自分は臆病な弱い人間に過ぎない、 と痛感させられたのです。この後、 ある知り合いが家に入れてくれまし たが、そこにいた老婆が突然「神父 がいる。みんな殺される」と叫び始 め、その家も去らねばならなかった のです。

戦争開始以来、神父の最大の心配は若いメンバーや家族、友人たちの消息でした。10月末にマドリードに国民軍が迫ってきました。革命政府はこの危機を前にして、町に多くの敵が隠れていると疑い、これまで以上

に逮捕と処刑に躍起になりました。 11月、ホアン・ヒメネス・バルガス、アルバロとホセ・マリア・エルナンデス・デ・ガルニカの三人のメンバーが次々と逮捕されました。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-28/ (2025/12/17)